

社会調査実習ガイダンス資料

1. 池田先生担当

2020年度の社会調査実習ガイダンス（池田寛二）

新型コロナウイルスの感染拡大にともなう緊急事態宣言によって、すでに大学から通達されているように、当面学校で通常の対面式の授業を実施することはできなくなりました。そこで、今年度の社会調査実習は、下記のとおり、通常とは異なる授業形態で実施しますので、充分にご理解の上、履修の手続きを進めてください。

- 1) 春学期は全面的にオンラインで授業を実施します。
- 2) オンライン授業の実施形態はさまざまですが、当面は、「学習支援システム」を最大限活用します。ですから、受講生は、まず「学習支援システム」にアクセスして、具体的な授業の進め方について確認してください。
- 3) 受講生の人数と各自の通信環境が確認できた段階で、オンライン・ミーティング(Zoomなどのアプリを利用する)に移行する可能性があります。その段階で、あらためて連絡します。
- 4) 「社会調査実習」は、社会調査士資格との関係で、原則として「調査研究法B」とセットで履修してください。
- 5) 詳細は、初回の授業（4月23日（木）4限）の遅くとも1週間前まで（つまり、16日まで）に、「学習支援システム」に連絡事項をアップしておきますので、16日以降23日の初回授業時までには必ず確認しておいてください。
- 6) 授業内容は、基本的にシラバスどおりです。しかし、通常の現地調査（フィールドワーク）、つまり調査対象地に出向いて、調査対象者と「面接」という形でのインタビュー調査を実施することはできなくなる可能性があります。その場合は、オンラインなどさまざまな代替的調査手法を活用しなければなりません。春学期終了時までには、事態の推移に応じてその点も指示します。

2. 田嶋先生担当

2020年度<社会調査実習ガイダンス>（春学期はウェブ授業を基本とします）

実習担当 田嶋 淳子

1. これまでの社会調査実習について

- 2006年度「多文化共生のありかを求めて―新宿区大久保地域調査報告」
- 2007年度「コミュニティとしての横浜中華街―横浜市中区山下町地域調査報告」
- 2008年度「在日韓国・朝鮮人の生き方―荒川区三河島地区調査報告」
- 2010年度「グローバル化の中の池袋―その過去・現在・未来―」
- 2011年度「多文化共生のありかを求めて Part II―新宿区大久保地域調査報告」
- 2012年度「コミュニティとしての横浜中華街 Part II―横浜市中区山下町地域調査報告」
- 2013年度「市民としての貢献―川崎市外国人市民代表会議（1996-2013）の経験を通して―」
- 2014年度「多文化共生のありかを求めて Part III―新宿区大久保地域調査報告」
- 2018年度「コミュニティとしての横浜中華街 Part III―横浜市中区山下町地域調査報告」
- 2019年度「多文化共生のありかを求めて Part IV―新宿区大久保地域調査報告―」

<2019年度 社会調査実習 全行程>2020年度の春学期は基本的にオンライン授業です。

- 2019年4月 調査地域の設定と地域関連資料の配付および資料収集作業
文献リストの作成作業（これらと並行して、講義形式による地域概要の説明とこれまでに作成された調査報告書の読み合わせ作業 2014年度報告書『多文化共生のありかを求めて』など）
- 5月 新宿区大久保地域での写真撮影、街の概観、概要について既存文献を読む。
地域における歴史文献、統計資料の読み込み作業、大久保コリアンタウン形成に関する基本的な理解を深める。各自が明らかにすべき課題・方向性について、問題意識を設定するために、文献講読を進める（スライド上映会）。大久保特別出張所に勤務するゼミの先輩Uさんインタビュー準備作業（質問項目の作成）。
- 6月 フォーマル・インタビューの準備作業本格化、とりまとめ作業
フィールドワーク実施（M学院Lさんへのフォーマル・インタビュー）。
- 7月 フォーマル・インタビューのノート起こし作業とテープ起こしの比較検討作業。
夏休み中に実施予定の大久保地域に存在するさまざまなボランティア・アソシエーションへのインタビュー準備作業（ここではアポイントメントの取り方、質問項目の作り方、インタビューの進め方について事前に担当を決め、作業に取り組む）。
- 8月 2019年度は人数が少なかったため、各自でインタビューの実施およびテープ起こし作業。すべての記録を文字化し、自らのインタビュー作業を振り返る。
- 9月 調査データの確認と分析作業

ケース分析＝グラウンデッド・セオリーを採用し、オープン・コード化、軸足コード化作業を各自のケースについて進める。

- 10 月 質的データ分析結果に最終インタビュー記録として補足調査作業を実施し、各自の質的データ分析見取り図を作成する。
- 11 月 各自の論文化へ向け、報告書構成の提出、資料、データの棚卸し作業。調査データの論文化、補足データの作成作業。
- 12 月 個別の問題意識を深めるための資料読み直し作業を実施する。また、フィールドワークで得られた資料の相互読み合わせ、報告レポート第一次締め切り（1月9日）。
- 1 月 調査報告レポートの推敲と分析内容の検討作業（調査報告第2次締め切り1月30日）。
- 2 月 報告書の作成・印刷（入稿）完成は2月25日で、それまでに礼状の作成作業。
- 3 月 新型コロナ・ウィルス感染問題があつて、全員を集めて報告書の発送作業ができず、各自が社会調査室に調査報告書を取りに行き、お世話になった調査対象者の方へ報告書を送付。

2・今年度の取り組みについて

これまで何度か同じ地域を継続的に調査し、その推移を把握しながら、調査実習を進めている。今回対象地域として設定している豊島区池袋地域に関しては「グローバル化の中の池袋ーその過去・現在・未来ー」として取り組んだ2010年以來10年ぶりである。今年度は**新型コロナ・ウィルス感染の広がりという問題もあり、直接インタビュー対象者に会って調査することが難しいと考えられる**。そこで、本調査実習としては、初めての試みであるが、ウェブによるインタビュー実施作業を考えている。画面にインタビュー対象者に出てもらい、こちらからは全員が顔が見える状態にして、先方とのインタビューに取り組む。これまで田嶋は学会などでこうした形式のものを経験したことがあるが、個人インタビューをこうした形式で実施するのは未経験である。携帯などで、海外在住の方へ連絡をするのと基本的には変わらないだろう。中国人の経営者層や、ボランティア・アソシエーションの代表者などはネット環境を駆使して生活しており、生活空間としてのネット空間は日常的でもある。こうした調査はむしろ、現在の社会状況に極めてふさわしいものではないかと考えている。時空間を越えて、調査が拡大できるという期待もある。ただし、社会地図作成作業などはネット空間の店舗配置をみていくことになるだろう（これは元データの正確さに問題がある）。池袋という地域をネット上でどうとらえることができるのか、新しい試みにネット作業に強い学生の参加を期待したい。

3・自己負担しなければならない費用

多摩キャンパスから23区内の調査地までの交通費。今年度は新型コロナ・ウィルスの問題があるので、合宿は予定していない。また、インタビュー自体もネット環境を駆使して実施したいと考えており、実際に交通費はかからないのではないかと思う。

以上。

3. 樋口先生担当

コロナウィルスの影響のため、本年度の実習では、その運営方法を、シラバスに記載されたものから大きく変更する。変更の主たる目的は、人と人が対面しなくてもできるような調査にすることである。受講を考えている学生は、以下の変更点を確認した上で、改めて受講を検討してほしい。

①調査テーマ

高校生が直面する困難の社会学的分析

②調査方法 ※変更

実習では、大学の外に出て対象者に会い、直接インタビューすることはせず、既存のインタビュー・データを用いて、分析を行う（二次分析）。ただし、調査の実施を除いて、社会調査に関する基本的な手続き（仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、対象者の選定、サンプリング、エディング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成）は、すべて体験できるよう設計されている。

③用いるデータ ※変更

関東近郊にある定時制高校に在籍する4年生、28名のインタビュー・データ
同高校の教員、7名のインタビュー・データ

④授業のやり方（4/10現在の予定） ※変更

春学期はすべてオンライン授業で行うことを想定している。秋学期については、コロナウィルスの状況に応じて、9月にやり方を決定する。春学期においても、コロナウィルスの状況が改善したときは、オンライン授業から通常の対面授業に戻すことがある。

⑤履修上の注意

- ・この社会調査実習を受講する際は、私が担当する「調査研究法B」もセットで必ず受講すること。
- ・受講希望者が多数の場合は、受講者を選考することがある。

⑥初回授業 ※変更

4/27（月）の初回授業では、zoomを用いて、実習に関するガイダンスと質疑応答をする予定である。具体的なやり方については、追って連絡する。したがって、それまでは定期的に「学習支援システム」および自分のメールを確認すること。